

2025年3月期 決算説明会

2025年5月13日

J C R ファーマ株式会社

【証券コード】 4552

【問合せ先】 経営戦略本部 広報・IR室 ir-info@jp.jcrpharm.com

2025年3月期 連結業績
2026年3月期 連結業績予想

伊藤 洋
上席執行役員 経営戦略本部長

(単位：百万円)

連結	2024年3月期	2025年3月期		
	実績	実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	42,871	33,072	△9,799	△22.9%
売上原価	11,620	11,333	△287	△2.5%
売上総利益	31,251	21,738	△9,512	△30.4%
販売費及び一般管理費	23,719	28,389	+4,670	+19.7%
販売・一般管理費	12,484	12,958	+473	+3.8%
研究開発費	11,234	15,431	+4,196	+37.4%
営業利益	7,531	△6,650	△14,182	-
営業外収益	1,056	260	△796	△75.3%
営業外費用	1,324	1,088	△236	△17.9%
経常利益	7,264	△7,477	△14,742	-
特別利益	0	1,065	+1,064	-
特別損失	20	2	△18	△90.0%
税引前純利益	7,244	△6,414	△13,658	-
法人税等	1,736	△1,655	△3,391	-
親会社株主に帰属する当期純利益	5,507	△4,759	△10,266	-
（ご参考） 共同開発先による負担控除前の研究開発費	12,787	16,994	+4,207	+32.9%

連結決算概要に関する補足説明

- 前年同期比で減収減益となりました
- 主な要因は、1）予定していたライセンス契約が当期中の締結には至らなかったこと、2）製造関係の資材および治験薬等の在庫を精査し、今後の使用の予定がないものについて損失を計上したことです
- 上記廃棄損は売上原価に19.5億円、研究開発費に10.6億円計上しています
- 研究開発費の増加は主に海外の臨床開発体制の整備、人員の拡充および開発の進展によるものです
- 営業外の収益、費用において、今年度は為替差益の計上がなく、為替差損が計上されています。また持分法による投資損失が減少しました
- 神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の建設費用に係る補助金の確定が翌期にずれ込み、想定していた特別利益が当期に計上されませんでした

対売上高	2024年3月期	2025年3月期	増減
売上原価率	27.1%	34.3%	+7.2%
売上原価率 （契約金除く）	32.8%	34.8%	+2.0%
研究開発費率	26.2%	46.7%	+20.5%
営業利益率	17.6%	△20.1%	-

(単位：百万円)

連結	2024年3月期	2025年3月期		
	実績	実績	前年同期比	
			増減額	増減率
グロウジェクト®	17,913	18,098	+184	+1.0%
イズカーゴ®※	5,171	5,718	+547	+10.6%
テムセル®HS注	3,236	2,904	△331	△10.2%
腎性貧血治療薬	4,652	3,784	△868	△18.7%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	1,994	1,690	△303	△15.2%
ダルベポエチン アルファ BS注「JCR」	2,658	2,093	△564	△21.2%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	1,661	1,149	△512	△30.8%
医薬品合計	32,636	31,655	△981	△3.0%
契約金収入	7,413	517	△6,896	△93.0%
その他※	2,820	898	△1,922	△68.1%
売上高合計	42,871	33,072	△9,799	△22.9%

売上高内訳に関する補足説明

- グロウジェクト®の売上高は、2024年4月に薬価改定があったものの、販売数量が増加したことにより増加しました
- イズカーゴ®の売上高は前年同期比10.6%増加し、好調に推移しました
- テムセル®の売上高は競合環境の変化により前年同期比10.2%減となりましたが、計画は達成しました
- 腎性貧血治療薬は、販売先であるキッセイ薬品工業株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」については、販売先である住友ファーマ株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- 契約金収入は予定していたライセンス契約が当期中の締結には至らなかったことなどにより、期初想定を下回る着地となりました
- その他の売上高減少は受託製造終了によるものです

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

（単位：百万円）

	2024年 3月末	2025年 3月末	増減 ・ 主な増減項目		2024年 3月末	2025年 3月末	増減 ・ 主な増減項目
流 動 資 産	57,581	51,056	計 △6,524	流 動 負 債	30,135	43,988	計 +13,852
			・ 現金及び預金 △5,559 ・ 売掛金及び契約資産 △2,698 ・ 棚卸資産 +822				・ 短期借入金 +17,105 ・ 未払法人税等 △1,620
				固 定 負 債	15,615	13,431	計 △2,183 ・ 長期借入金 △2,300
固 定 資 産	44,644	53,798	計 +9,154	負 債 合 計	45,750	57,420	計 +11,669
			・ 有形固定資産 +7,369 ・ 繰延税金資産 +1,697	純資産合計	56,475	47,435	計 △9,040 ・ 当期純損失 △4,759 ・ 自己株式 △2,103
合 計	102,226	104,855	2,629	合 計	102,226	104,855	2,629

財務状態に関する補足説明

- ・ 有形固定資産の増加は、神戸サイエンスパークセンター新製剤工場の建設開始によるものです
- ・ 短期借入金の増加は、新製剤工場の建設、運転資金のための資金調達および長期借入金からの振り替えによるものです

	2024年 3月末	2025年 3月末
自 己 資 本 率 自 比	54.2%	44.8%

【2026年3月期 予想】 連結決算概要

(単位：百万円)

連結	2025年 3月期	2026年3月期		
	実績	予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	33,072	37,800	+4,727	+14.3%
売上原価	11,333	8,200	△3,133	△27.6%
売上総利益	21,738	29,600	+7,861	+36.2%
販売費及び一般管理費	28,389	27,000	△1,389	△4.9%
販売・一般管理費	12,958	12,000	△958	△7.4%
研究開発費	15,431	15,000	△431	△2.8%
営業利益	△6,650	2,600	+9,250	-
経常利益	△7,477	2,400	+9,877	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△4,759	3,000	+7,759	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	16,994	17,100	+105	+0.6%

連結決算概要（予想）に関する補足説明

- 売上高は、イズカーゴ®の売上増や契約金収入の増加を見込むため、前期と比較し増加する見込みです
- 売上原価は、前期に製造関係の資材の廃棄損が発生したため、前期比では減少を見込みます
- 販売・一般管理費は、効率的な事業遂行などにより前期比で減少する見込みです。また、研究開発費についてもグローバル臨床試験の進捗があるものの、前期には治験薬等の廃棄損が発生しているため、前期比では減少する見込みです
- 営業利益は、契約金収入の増加を主因として、前期比で増加する見込みです
- 神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の補助金の金額確定に伴う圧縮記帳により、前期以前に計上した減価償却費相当分の特別利益が発生する見込みです

対売上高	2025年 3月期	2026年 3月期	増減
売上原価率	34.3%	21.7%	△12.6%
売上原価率（契約金除く）	34.8%	25.4%	△9.4%
研究開発費率	46.7%	39.7%	△7.0%
営業利益率	△20.1%	6.9%	+27.0%

【2026年3月期 予想】 売上高内訳（連結）

（単位：百万円）

連結	2025年3月期	2026年3月期		
	実績	予想	前年実績比	
			増減額	増減率
グロウジェクト®	18,098	17,800	△298	△1.6%
イズカーゴ®※	5,718	6,400	+681	+11.9%
テムセル®HS注	2,904	2,700	△204	△7.0%
腎性貧血治療薬	3,784	3,100	△684	△18.1%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	1,690	800	△890	△52.7%
ダルベポエチンアルファ BS注「JCR」	2,093	2,300	+206	+9.9%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	1,149	1,100	△49	△4.3%
医薬品合計	31,655	31,100	△555	△1.8%
契約金収入	517	5,500	+4,982	+963.2%
その他※	898	1,200	+301	+33.5%
売上高合計	33,072	37,800	+4,727	+14.3%

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

売上高内訳（予想）に関する補足説明

- グロウジェクト®は電動デバイスの有用性の訴求や、潜在患者や新規患者への積極的なアプローチなどにより販売数量の拡大を目指しますが、薬価改定の影響を受け、売上高の減少を見込みます
- イズカーゴ®は2023年4月より開始した領域専任制によるイズカーゴ®専任MRの配置や、住友ファーマ株式会社との共同プロモーションにより、継続して売上の増加を見込みます
- テムセル®は競合環境の変化により、売上減少を見込んでいます
- 腎性貧血治療薬とアガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」は販売先への供給計画に準じた売上高を見込んでいます
- 契約金収入はライセンス契約の締結を予定していることなどにより、前期を上回る水準を見込んでいます

開発品目の進捗

Anne Bechet

上席執行役員 開発本部長

JCR Europe B.V. General Manager

JCR USA Inc. General Manager

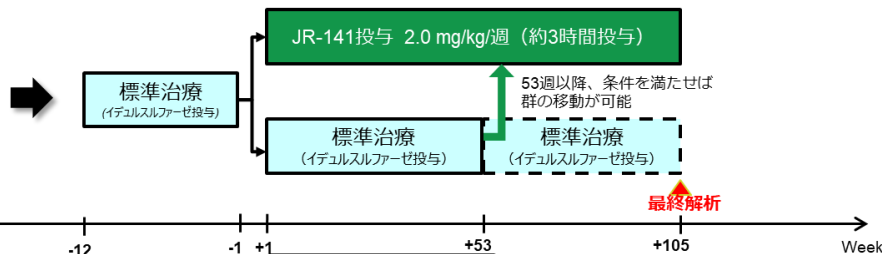
グローバル臨床第III相試験（JR-141-GS31試験）：STARLIGHT試験 概要

現在の状況

（試験概要）

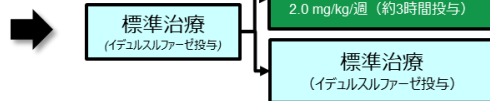
◆ Cohort A : (Neuropathic patients)

N=60



◆ Cohort B : (Attenuated patients)

N=20



- 12カ国、28施設で試験を実施
- 患者リクルート **95%以上達成**

概要

目的

- 既存ERTと比較し、JR-141が中枢神経系の徴候および症状に対して有効であること
- 既存ERTと比較し、JR-141が身体的徴候および症状に対して同等の抑制を示すこと

評価項目

- CSF中HS濃度、中枢神経症状（認知）
- 全身症状（肝脾容積、6分間歩行試験）

ClinicalTrials.gov

Identifier : [NCT04573023](https://clinicaltrials.gov/ct2/show/study/NCT04573023)

- 可能な限り早期に申請できるよう規制当局と緊密に連携
- 2025年6月までにFDAとの相談を実施予定

いまだ治療薬のない希少疾病に対し、臨床開発の着実な進捗を達成

JR-441

血液脳関門通過型 遺伝子組換えヘパランN-スルファターゼ
適応症：ムコ多糖症IIIA型

- 2023年10月 臨床第I/II相試験を開始（ドイツ）
 - 目標症例数の登録を完了
- 2024年10月 臨床第I相試験を開始（日本）
 - 目標症例数の登録を完了

JR-446

血液脳関門通過型 遺伝子組換え α -N-アセチルグルコサミニダーゼ
適応症：ムコ多糖症IIIB型

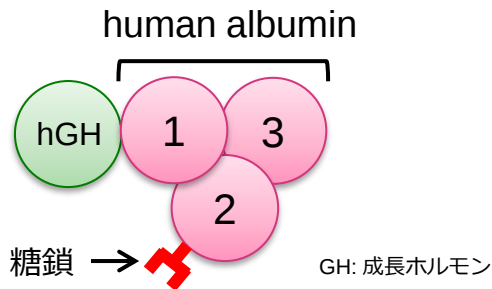
- 2024年12月 臨床第I/II相試験を開始（日本）
- 独立データモニタリング委員会による初回安全性レビューが完了
 - 現時点で安全性に懸念はなく、治験継続可との判断

JR-142

遺伝子組換え長時間作用型成長ホルモン

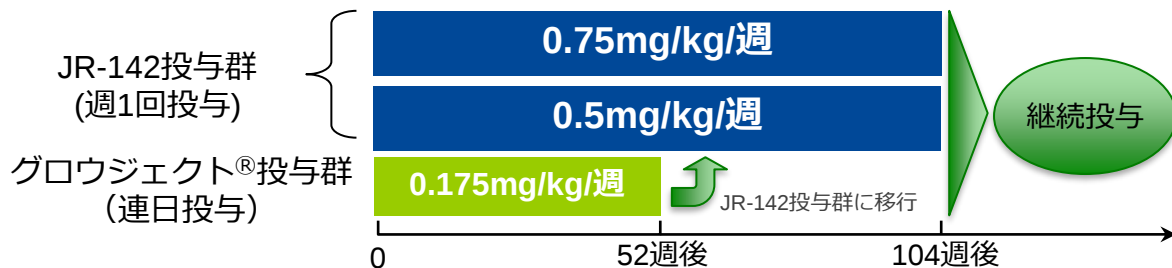
適応症：骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症

改変型アルブミン融合GH



血中滞留性の向上のため、
糖鎖を付加した改変型アルブミン
との融合タンパクを自社開発

臨床第III相試験 概要



概要

目的

- グロウジェクトに対するJR-142の非劣性の検証、並びに有効性および安全性の比較評価

評価項目

- 52週後での暦年齢相当身長SDSの初回投与時からの変化量 (Δ暦年齢相当身長SDS)

目標症例数

- 54名

2024年12月 第III相試験にて最初の症例への投与を開始

開発番号	適応症	開発段階				備考
		前臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
JR-141	ムコ多糖症II型（ハンター症候群）	Global Ph3				2025年度 第3四半期：登録完了予定 ～2027年度 米国・欧州・ブラジルでの承認予定
JR-142	骨端線閉鎖を伴わない 成長ホルモン分泌不全性低身長症	Ph3（日本）				2024年12月 Ph3初回投与
JR-171	ムコ多糖症I型（ハーラー症候群 等）	Global Ph1/2 completed				- 継続試験が進行中 - 導出に向けて交渉中
JR-441	ムコ多糖症IIIA型（サンフィリップ症候群A型）	Ph1/2（ドイツ）				<Ph1/2> - 目標症例数の登録完了 2025年度 下半期 データ（1年）の解析完了 <Ph1> - 目標症例数の登録完了
		Ph1（日本）				
JR-446	ムコ多糖症IIIB型（サンフィリップ症候群B型）	Ph1/2（日本）				2024年12月 Ph1/2初回投与 - メディopalホールディングスに導出
JR-471	フコシドーシス					メディopalホールディングスに導出

研究活動の進捗

藺田 啓之

取締役 専務執行役員 研究本部長

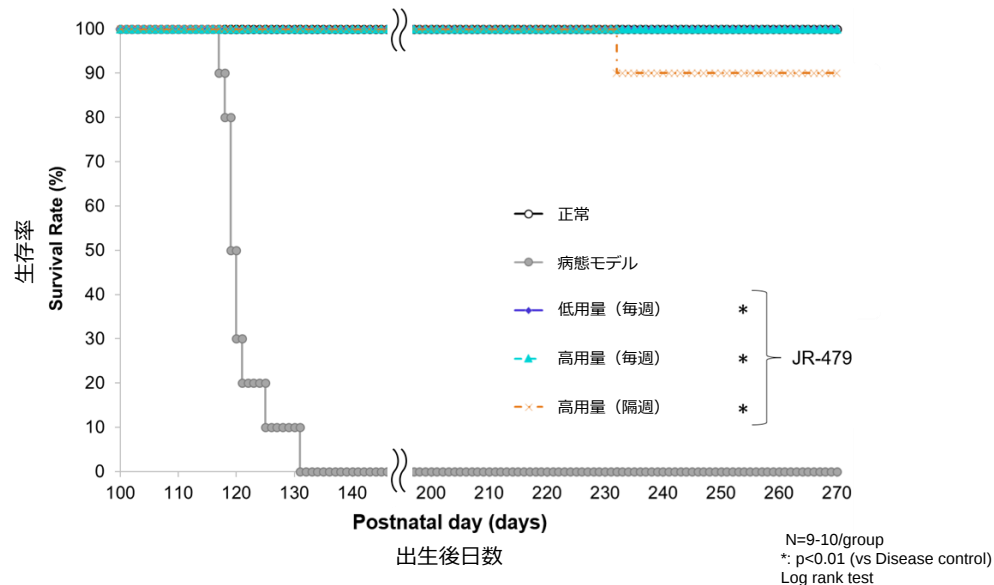
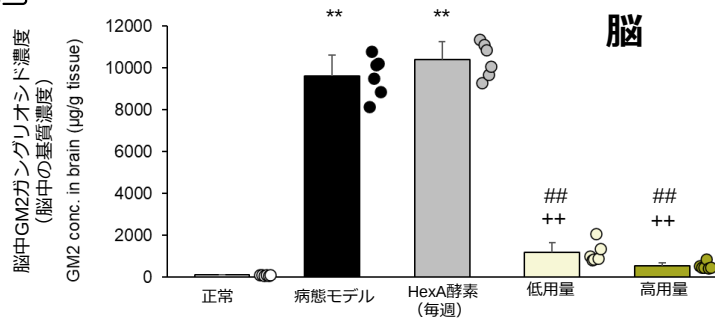
開発番号	適応症	開発段階				備考
		前臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
JR-141	ムコ多糖症II型（ハンター症候群）	Global Ph3				2025年度 第3四半期：登録完了予定 ～2027年度 米国・欧州・ブラジルでの承認予定
JR-142	骨端線閉鎖を伴わない 成長ホルモン分泌不全性低身長症	Ph3（日本）				2024年12月 Ph3初回投与
JR-171	ムコ多糖症I型（ハーラー症候群 等）	Global Ph1/2 completed				- 継続試験が進行中 - 導出に向けて交渉中
JR-441	ムコ多糖症IIIA型（サンフィリップ症候群A型）	Ph1/2（ドイツ）				<Ph1/2> - 目標症例数の登録完了 2025年度 下半期 データ（1年）の解析完了 <Ph1> - 目標症例数の登録完了
		Ph1（日本）				
JR-446	ムコ多糖症IIIB型（サンフィリップ症候群B型）	Ph1/2（日本）				2024年12月 Ph1/2初回投与 - メディパルホールディングスに導出
JR-471	フコシドーシス					メディパルホールディングスに導出
JR-479	GM2ガングリオシドーシス （テイ・サックス病、サンドホフ病）					—

JR-479

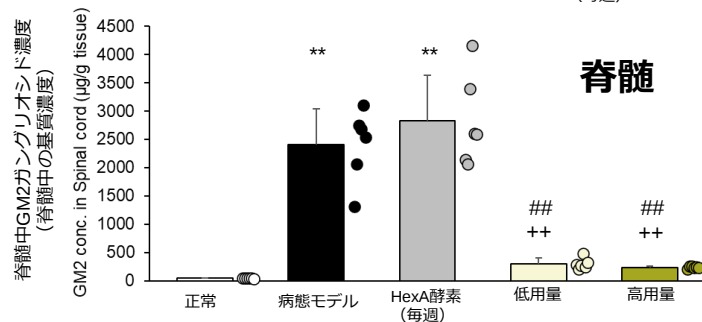
血液脳関門通過型遺伝子組換えβ-ヘキソサミニダーゼ A

適応症：GM2ガングリオシドーシス（テイ・サックス病、サンドホフ病）

酵素補充療法

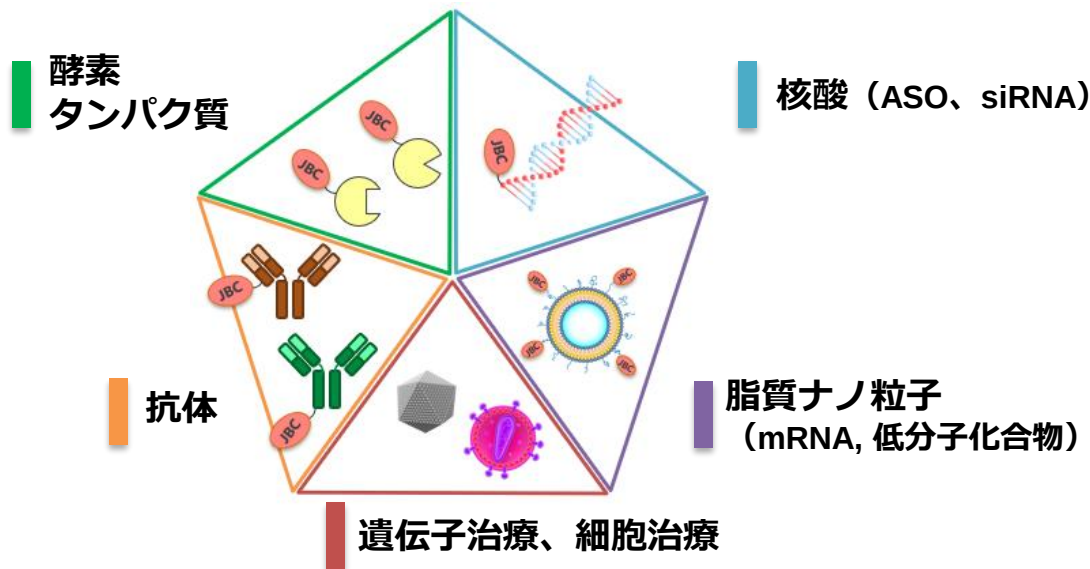


- ・脳および脊髄において、JR-479投与群では基質が有意に減少
- ・JR-479を投与したマウスは270日時点で90%以上生存



N=6/group, mean +/- S.D.
 **: p<0.01 (vs Wild-type control)
 ##: p<0.01 (vs Disease control)
 ++: p<0.01 (vs HexA), Tukey HSD

J-Brain Cargo®は多様なモダリティに応用可能



J-Brain Cargo®技術の実用化
「イズカーゴ®」の製造販売承認 (日本)

アレクシオン社、アンジェリーニ社と
「J-Brain Cargo®」に関する提携

ALEXION
AstraZeneca Rare Disease

Angelini
Pharma

2020

2021

2022

2023

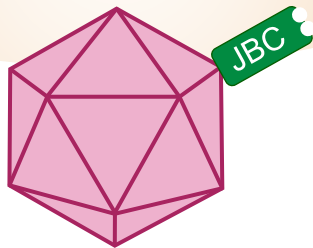
2024

2025

モダリス社と新規遺伝子治療の開発に関する提携

MODALIS

JUST-AAV



AAV: アデノ随伴ウイルス

JBC: J-Brain Cargo®

JCR

JCRによる

Ultimate Destination of Organ

標的の臓器に輸送し

Safeguarding against off-target delivery

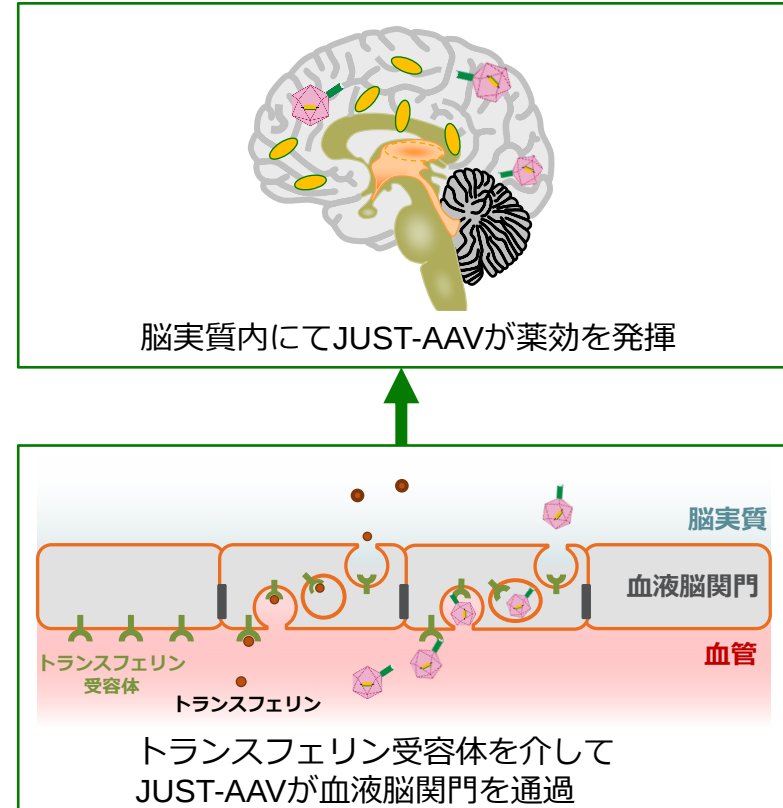
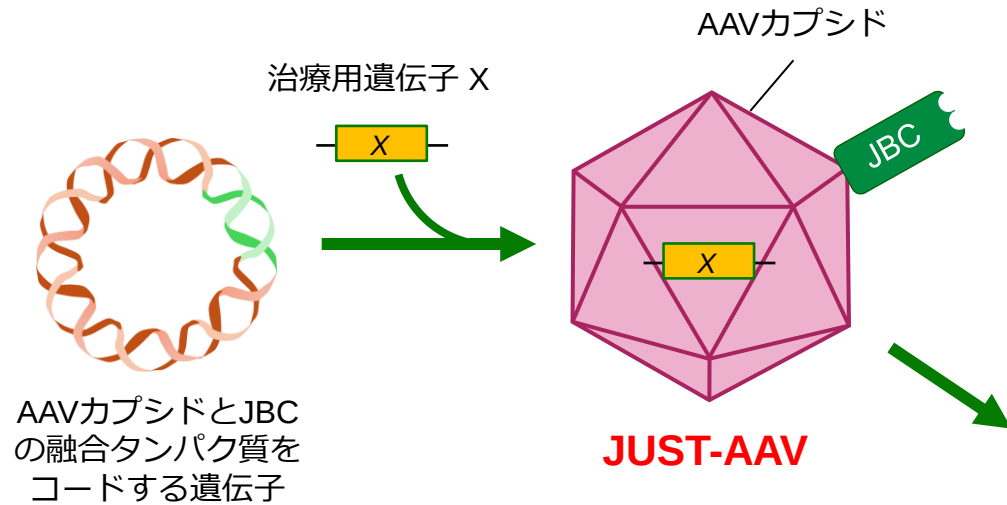
標的外の臓器への輸送を防止する

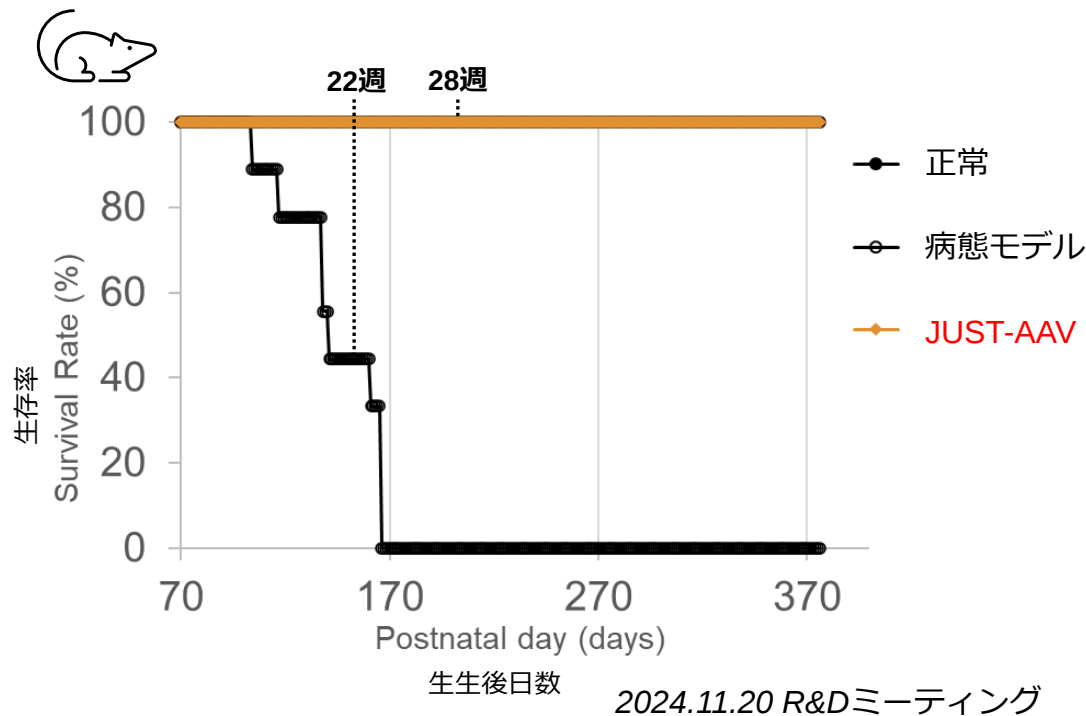
Transformative Technology

革新的な技術

目的とする組織・臓器への指向性を有し、かつ
特定の組織・臓器への移行性を低減したAAV

JUST-AAVの作用機序（脳を標的とする場合）





マウスの尾にコーディング

黒: 正常 (28週時点)

赤: JUST-AAV投与 (28週時点)

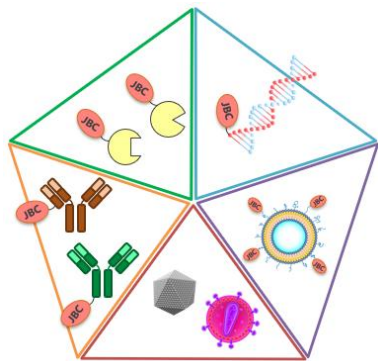
なし: 病態モデル (22週時点)



JUST-AAVを用いた遺伝子治療により、正常マウスと同様に370日以上生存

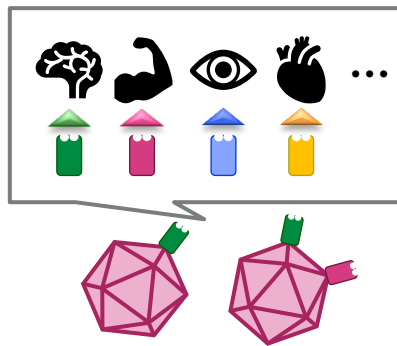
基盤技術のライセンスアウトを拡充し、
希少疾病にとどまらず画期的な治療薬を創製する

J-Brain Cargo®



多様なモダリティに応用可能な
血液脳関門通過技術

JUST-AAV



標的とする組織への送達性を高め
肝臓への集積性を低減させたAAV

ライソゾーム病

神経変性疾患

筋疾患

神経炎症性疾患

神経腫瘍

...

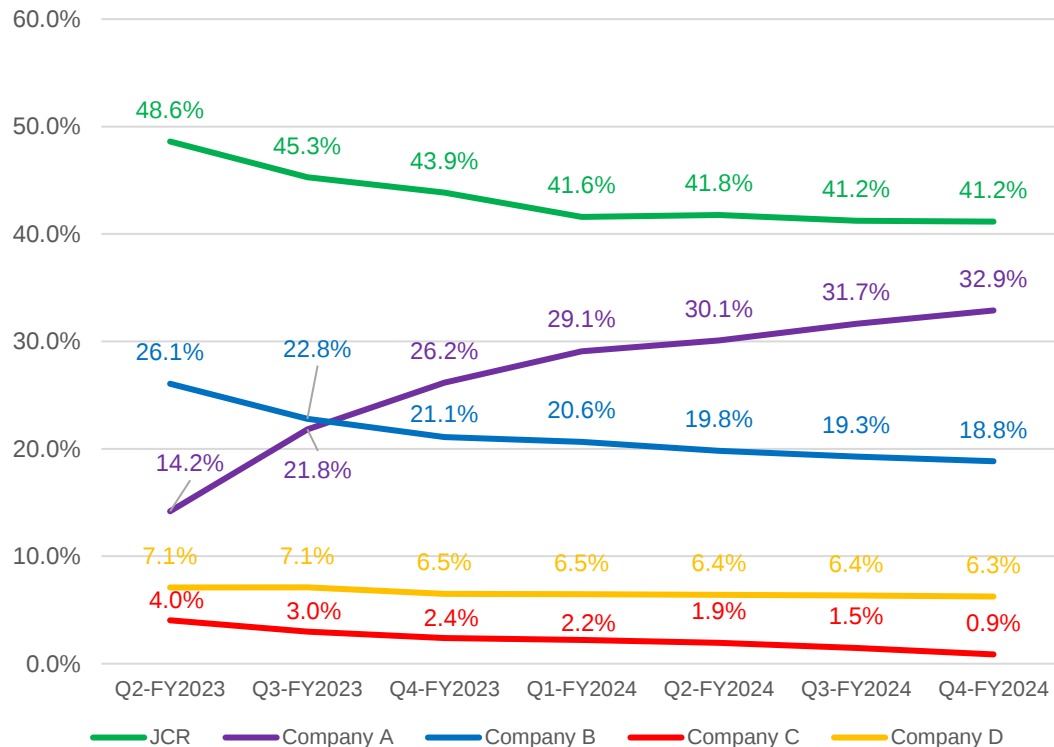
Reach Beyond, Together

一緒に、その先へ

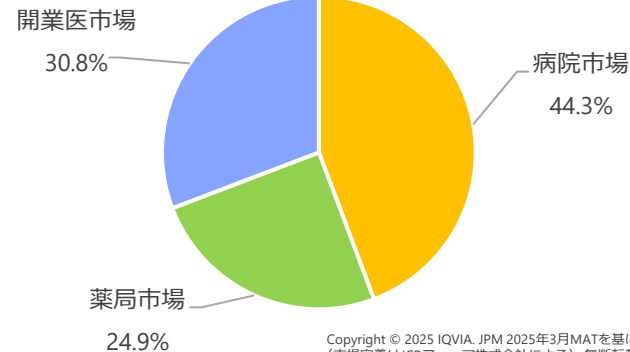


Appendix

国内GH市場シェア推移（FY2023 Q2～FY2024 Q4） ※薬価ベース



■国内GH市場

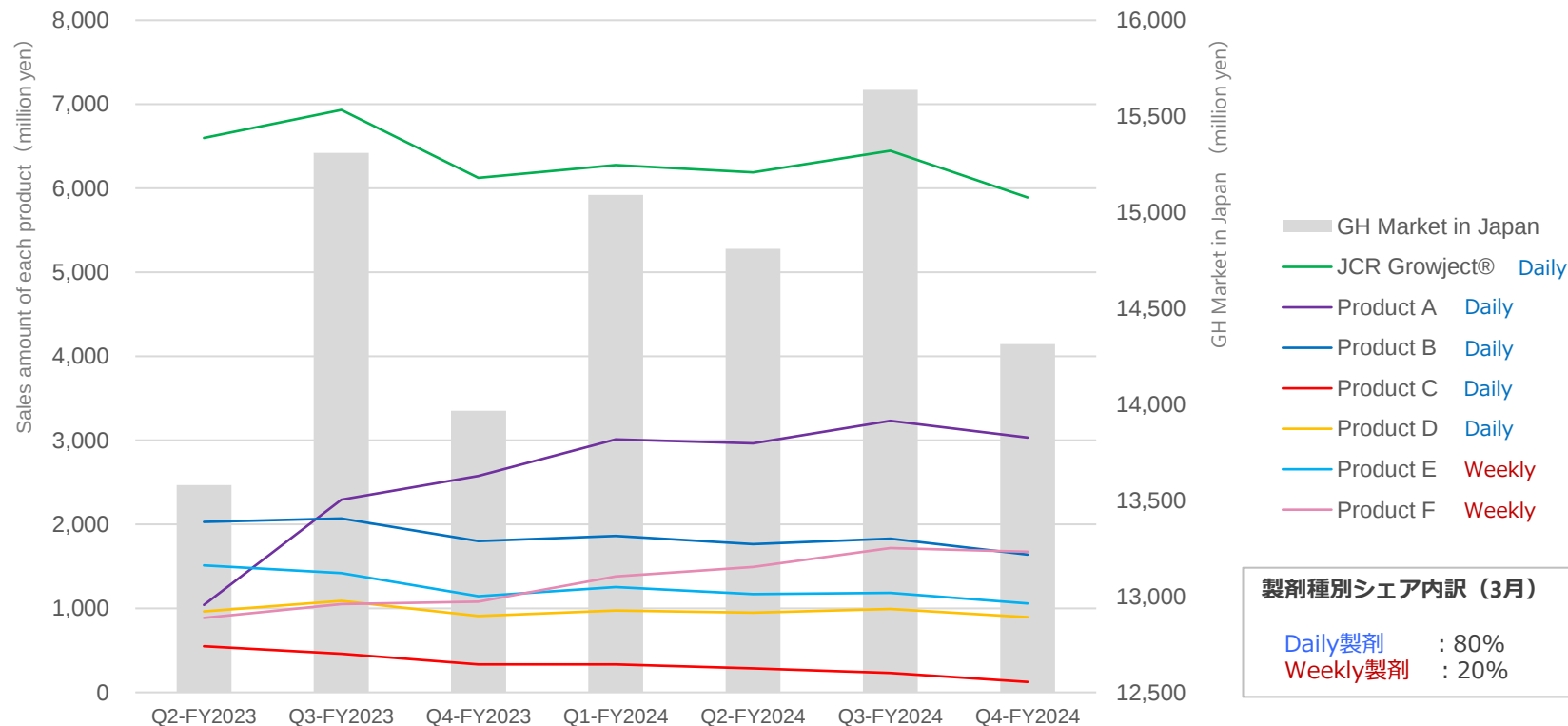


■各市場別 グロウジェクト®獲得シェア

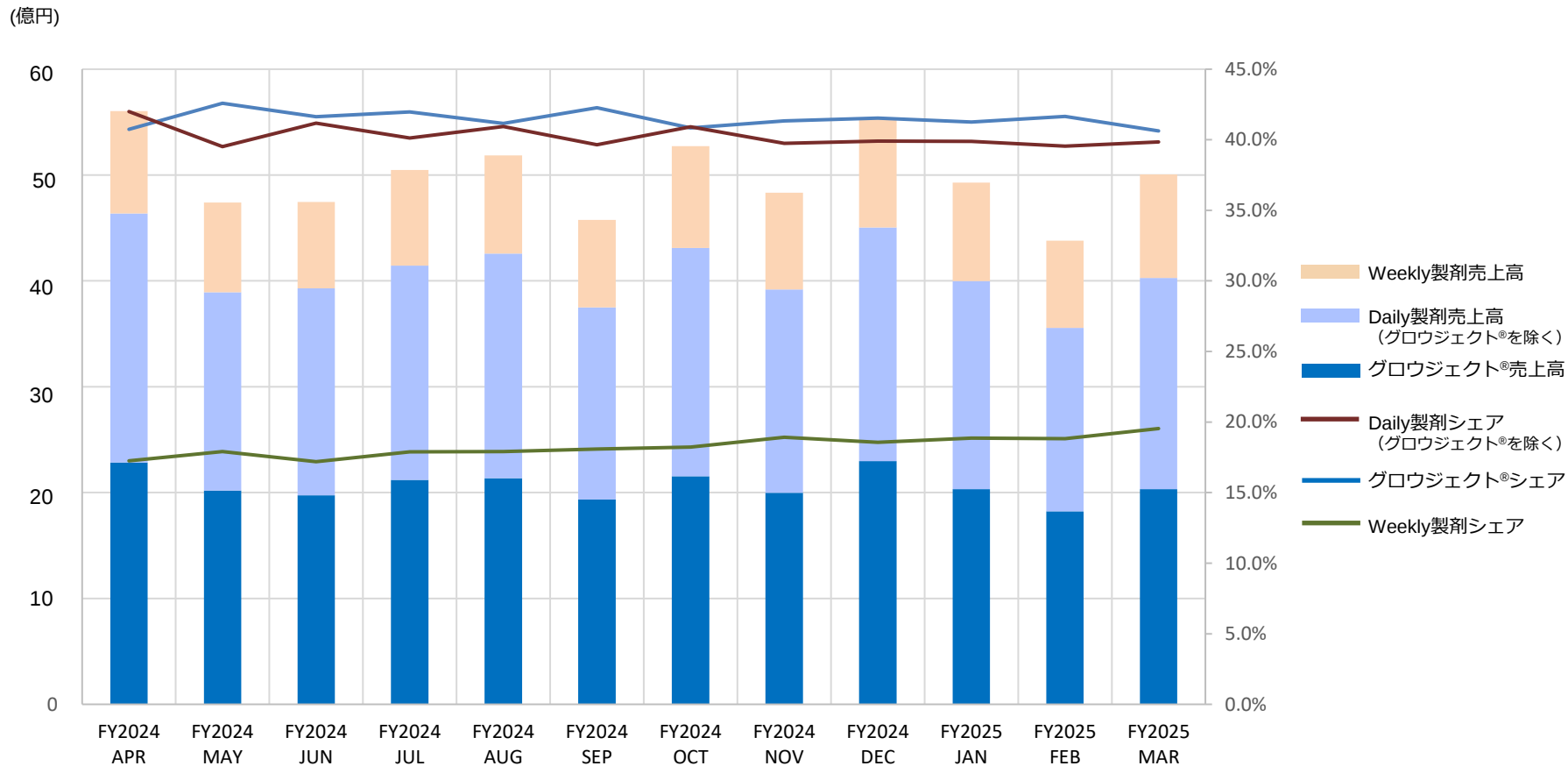
	2025年 3月時点	FY2024 Q4売上増減 (vs FY2023 Q4売上) ※薬価ベース
病院市場	33.0%	-166百万円
薬局市場	29.0%	-66百万円
開業医市場	61.6%	-1百万円

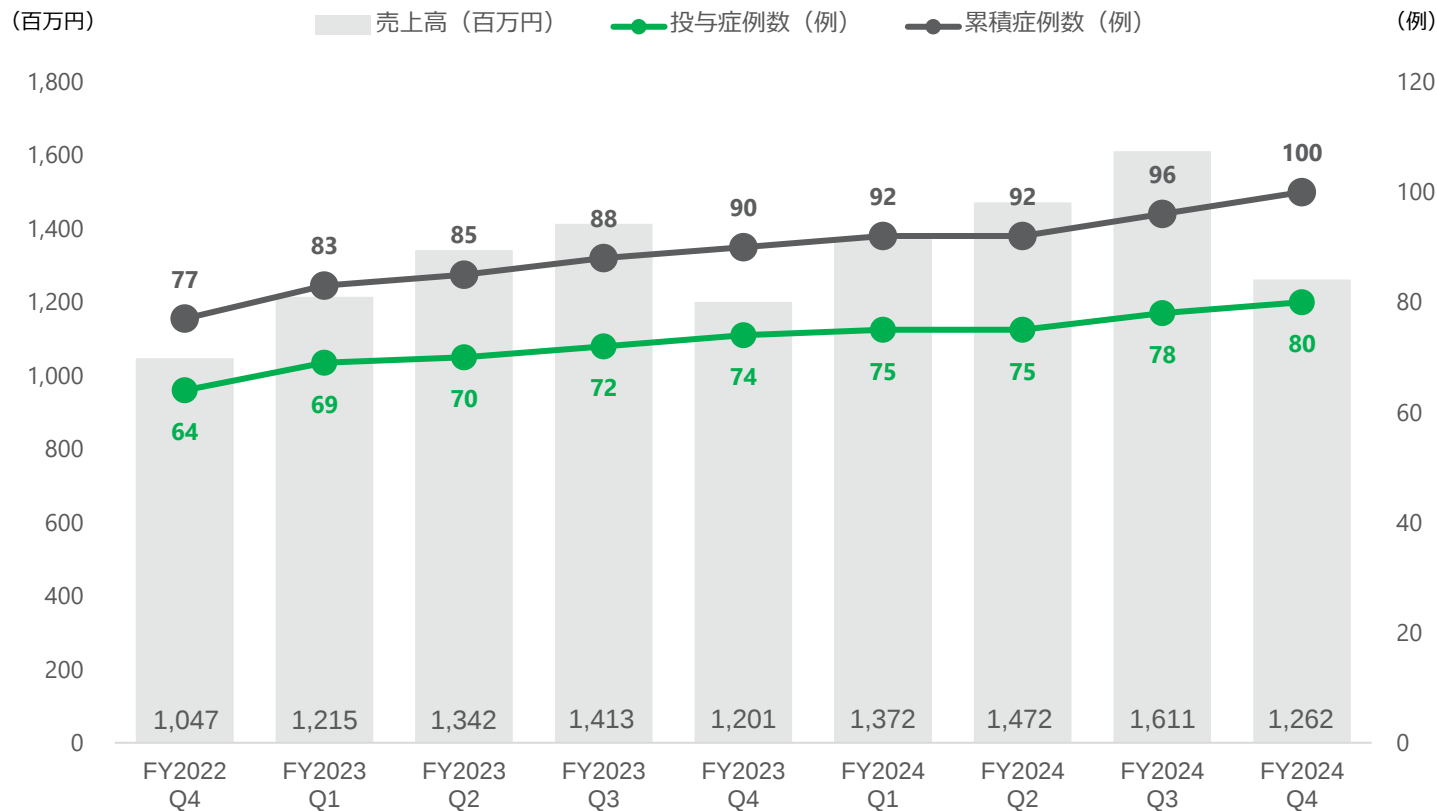
Copyright © 2025 IQVIA. JPM (2025年1月-2025年3月) を基に作成
(市場定義はJCRファーマ株式会社による) 無断転載禁止

国内GH市場推移（FY2023 Q2～FY2024 Q4）※薬価ベース



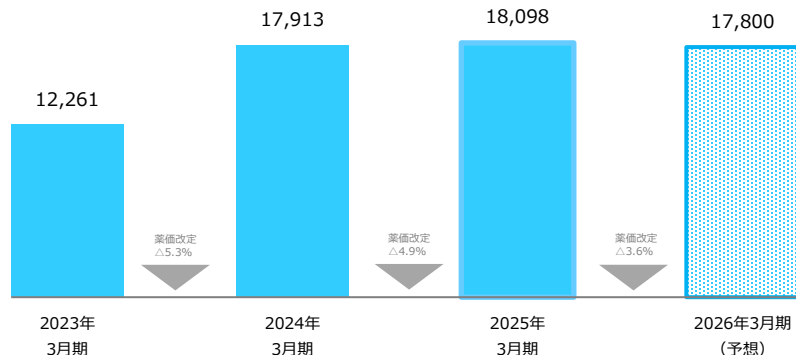
グロウジェクト® 国内市場動向（シェア 推移）





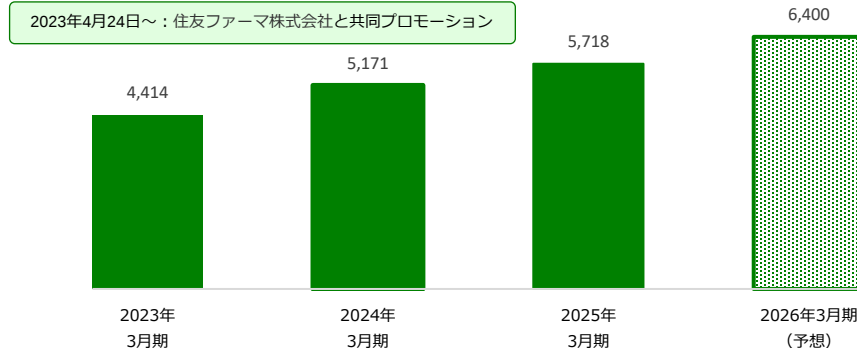
【2026年3月期 予想】各製品別売上高推移

遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤
グロウジェクト®皮下注



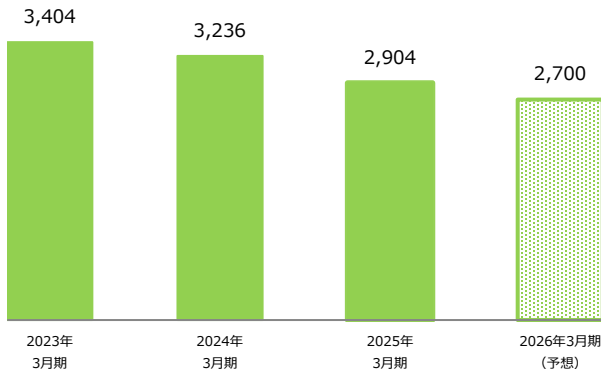
遺伝子組換えムコ多糖症II型治療剤
イズカーゴ®点滴静注用

(単位: 百万円)



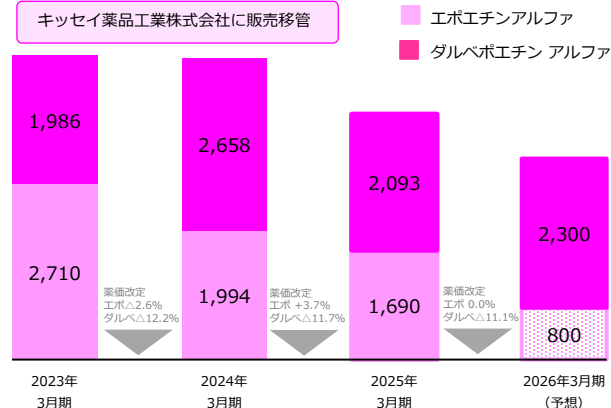
※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは除く

ヒト体性幹細胞加工製品
ヒト(同種)骨髄由来間葉系幹細胞
テムセル®HS注



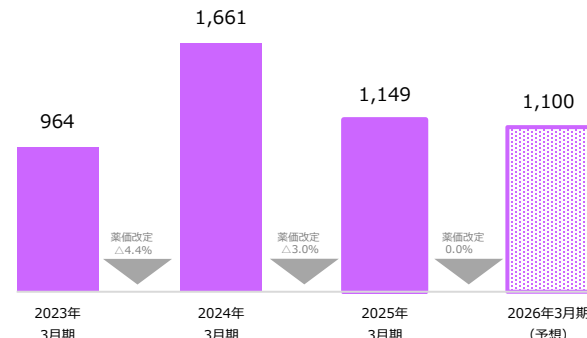
遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤
エポエチンアルファBS注「JCR」
持続型赤血球造血刺激因子製剤
ダルベオエチン アルファBS注「JCR」

キッセイ薬品工業株式会社に販売移管



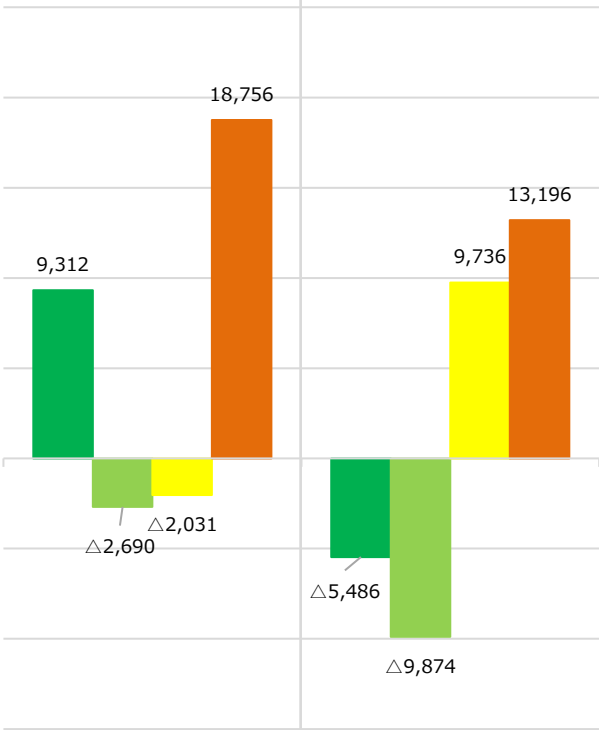
遺伝子組換えファブリー病治療剤
アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」

住友ファーマ株式会社に販売移管



(単位：百万円)

- 営業活動によるCF
- 投資活動によるCF
- 財務活動によるCF
- 期末現金及び現金同等物



2024年3月期

2025年3月期

	2024年3月期	2025年3月期	増減
税金等調整前純利益	7,244	△6,414	△13,658
減価償却費	3,197	3,374	+176
売上債権・未収入金（△増加）	△3,390	2,453	+5,844
棚卸資産（△増加）	△2,437	△822	+1,615
仕入債務・未払金（+増加）	△281	△36	+244
法人税等の支払	1,982	△2,284	△4,266
その他	2,998	△1,755	△4,754
営業活動によるCF	9,312	△5,486	△14,798
設備投資	△2,096	△9,888	△7,791
その他	△594	13	+607
投資活動によるCF	△2,690	△9,874	△7,184
借入金	500	14,805	+14,305
配当金・自己株式	△2,485	△5,014	△2,529
その他	△46	△54	△7
財務活動によるCF	△2,031	9,736	+11,768
現金及び現金同等物の増減額	5,477	△5,559	△11,036
期末現金及び現金同等物	18,756	13,196	△5,559

	2024年3月期	2025年3月期
減価償却費	3,197	3,374
設備投資	2,096	9,888※

※補助金対象の金額が含まれています

AAV	Adeno-Associated Virus	アデノ随伴ウイルス
API	Active Pharmaceutical Ingredient	原薬
ASO	Antisense oligonucleotides	アンチセンス核酸
BBB	Blood-Brain Barrier	血液脳関門
CNS	Central Nervous System	中枢神経系
CSF	Cerebrospinal fluid	脳脊髄液
CTN	Clinical Trial Notification	治験計画届
EC	European Commission	欧州委員会
EMA	European Medicines Agency	欧州医薬品庁
ERT	Enzyme Replacement Therapy	酵素補充療法
EU	European Union	欧州連合
FDA	Food and Drug Administration	米国食品医薬品局
GHD	Growth Hormone Deficiency	成長ホルモン分泌不全性低身長症

HS	Heparan Sulfate	ヘパラン硫酸
i.v.	Intravenous Injection	静脈注射
JBC	J-Brain Cargo®	-
LNP	Lipid nanoparticle	脂質ナノ粒子
MPS	Mucopolysaccharidosis	ムコ多糖症
NPS	Named Patient Supply	特定の患者への医薬品提供プログラム
ODD	Orphan Drug Designation	希少疾病用医薬品指定
Ph I	Phase I	臨床第 1 相試験
Ph II	Phase II	臨床第 2 相試験
Ph III	Phase III	臨床第 3 相試験
PRIME	Priority Medicines	アンメットメディカルニーズを対象とした医薬品の開発支援を強化するためのスキーム
R&D	Research and Development	研究開発
siRNA	small interfering RNA	短鎖干渉RNA
TBD	To be determined	未定

- 本資料におきまして、当社に関する業績、その他予想、見通し、目標、計画、その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる可能性があります。
- 本資料には医薬品・医療機器（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイス等を目的とするものではありません。
- 本資料の数字は百万円以下切り捨て、パーセンテージを任意の位で四捨五入し表示しています。そのため、合計数時に差異が生じる場合があります。